

太陽光発電事業に参入

中部自販、20億円を投資

中古車販売を手掛ける中部自動車販売(東京都東村山市)は太陽光発電事業に参入する。自社物件の屋根や採石場の跡地など5カ所にソーラーパネルを設置。合計出力6000キロワットと、一般家庭約1700世帯分の電力を発電する。3月末までに稼働を始め、5カ所で約2億4000万円の売り上げを見込む。

投資額は約20億円。ソーラーパネルを設置するのは群馬県高崎市や埼玉県深谷市の店舗の屋根に加え、栃木県足利市、宮崎県小林市、佐賀県唐津市の3カ所で借りた採石場跡地や遊休地。賃借地では出力15000〜21000キロワットのメガソーラー(大規模太陽光発電所)を設置する。発電した電力は地域の電力会社に売る方針だ。現在電力の買い取り価格は1キロワット当たり42円だが、国が4月以降に認定するソーラーパネルについては価格の引き下げが検討されている。中部自販は「設置コストが下がっており、土地を賃借しても事業は採算に見合う」と判断。来年度も千葉県旭市の工場団地などでメガソーラーを設置する。2015年3月末までに計100億円の投資を予定。今後は風力発電への投資も検討する。中部自動車販売は19

71年の設立。温泉施設ループ5社で12年3月期なども含め、関東を中心の売上高は約250億に23店舗を運営する。グ円。